

農園便り 10

月号(117号)

文責 筒口 典康

9月1日、大根を蒔く。カマキリ、シオカラトンボ、飛来する。土中にはミミズ、芋虫が復活する。刈草は敷いてあるけれども、まだ、ヤスデやムカデ、ワラジムシなどは、現れない。思えば手酷くやられたものである。除草剤には、お手上げだ。



除草剤で汚染されて、大量の水を撒く。2度目のサトイモが復活。 ショウガも元気になる。



サツマイモ、伸びない

キク、枯れあがる

隣の畑は、土を入れ替える

除草薬散布被害で、百合、サツマイモ、万願寺トウガラシの縮み上がった姿、苦しそうで可哀そう。散水して除染する。近くに住む杉並区の徳農家、西山君曰く、『筒口さん、そりゃ大変だね、3年はダメだ』と。

超巨大台風 11号、奄美大島に接近中(9/1)。東京も生暖かい。雷鳴が。大気がヌルイ。(9/7) 超々大型台風だ。

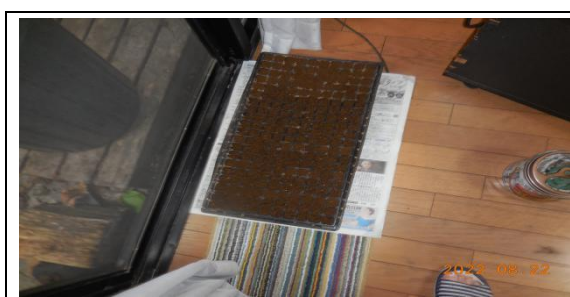
東京は今のところ地震、津波、大火、洪水、過乾燥等の被害はないが、一度発生したらどんな事になるかと大層心配している。

伊豆大島で暮らしていた4年間で(S37~40)火山性の大揺れ。三原山の噴火。三宅島の噴火。恐ろしい目にありました。迫りくる地球の温暖化も恐ろしい。

大島泉津の森口館の別館は、古い2階建ての建物で、ユサユサ揺れた。バスに乗り、水溜まりに落ちたようにドカッとくる。関東大震災は来てほしくない。帰島後、TVで、三原山の列状噴火の映像を見る。恐ろしや！

ツルナ×ハウレン草(新品種)収穫。毎日とれる。キュウリも2本ずつ。雲南百葉草(オカワカメ)、レタスも。よそ様が、ナス、トマト、ピーマン、トウガラシ等を、持ち帰っている。私の33区の畑は壊滅状態なので夏の3大野菜の収穫物は全く無い。残念無念。悔しい。

『あなた、色々も持ち帰ってくるけど、私は食べませんよ』、『ミトコンドリア病にはなりたくありませんからね』。「カエルも来るし、トンボも来る。ミミズもイモ虫もカマキリも居るから、もう安全だよ!」。『でも、私はいただきますよ』。大変な剣幕である。こんな事の喧嘩(言い争い)が始まる。困ったもんだ。お付き合いしてから一度も入院したことのない彼女は、用心深い!。



下種床に、2度目の葉物野菜を蒔く。



8月の葉物野菜苗は、虫にやられて失敗。

水菜、小松菜、ブロッコリー大根等の種を蒔く。10月に入ったらサヤエンドウとソラマメを蒔こう。葉物たちは混植状態になっていくであります。隙間が出来たら大根を蒔きましょう。

キュウリが、実に旨い。晴天の日の夕方に収穫したものは甘いのであります。ミソ、ゴマ味噌でいただく。ウニ、カツオの魚醤も合いますね。近くの「いなげや」では、このようなキュウリは無い。最高の贅沢である。そのキュウリも、もうお終いが近づく。芽が乱れるのであります。各節から脇芽が噴き出る。雄花が限りなく噴き出る。雌花が落ちる。夏キュウリのお終いだ。これからは温室キュウリ。来年待ちであります。

「醗酵牛糞堆肥」「みのり堆肥」「骨粉」は、農協で、「牡蠣殻石灰」(オザキフラワーセンター)で、「蟹殻」は、(芝勝)。「ダルマ堆肥」(タキイ種苗)、「糠」(保谷北の精米所・無料)。「醗酵豚糞堆肥」⇒「グリーンランド」(群馬)、「粃殻燻炭」(大泉コメリ)、「竹炭」「醗酵竹チップボカシ」(千葉県東風山・かぐや姫社)、粉炭(北海道白老町)。「草木灰」(自作)。「刈草」は千川緑道で獲得。珪酸補給のスギナの緑道にある。収穫物の残渣、種子をつけていない草達、「竹」「笹」の葉。みんな刈草にします。刈草マルチです。畝の上に「置」くだけで「楽」。オクオク・ラクラク。有る物を使います。

「麹菌」⇒「納豆菌」⇒「乳酸菌」⇒「酵母菌」。薄上秀男氏の提案する発酵肥料の作りに従って、自作の「有機肥料」を作る。これで、**有機・無農薬栽培**

培が出来る。

畑の構造は、「農園便り」1月号、或いは、**100号(特集)**のようにします。

後は、水管理。初めて野菜をおつくりになる方でも、美味しい、良い香り、甘い、ジューシーな野菜が一年目から出来る。また、農薬を全く使いませんから、「安心」で、「安全」なのであります。購入する醗酵堆肥中の「菌」にも働いてもらう。また、林に入り、「しろ」=落ち葉に着いた「菌糸の塊」を使うこともお勧めだ。これで、「健康野菜」が育つ。『**健康野菜**』『**元気野菜**』には、**病虫害が寄って来ない**。先ずは「土作り」**命一杯の「土」**で、『**健康で元気な野菜**』を作りましょう。家の光『やさい畑』4月号にも、掲載されている。

腐敗した有機物、合成したN肥の過剰の施肥は、病虫害を呼び込むのであります。とにかく、化学肥料8・8・8+堆肥の「現代農法」⇔「慣行農法」による菜園作りは止めましょう。必ず、「**農薬**」が必要になってまいります。薬を撒けば、「土」の生命体が壊滅してしまいますもの…。「沈黙の世界」になって欲しくないのであります。

野菜畑を野原のように作る。私の理想とする菜園です。野菜たちの「混植」「混播」で、野菜の「原」を作る。「**使い回しの畑作り**」をしていきたいものであります。菜園からは、捨てるものは出ません。全ての循環する中で連続していく、そんな畑が理想であります。



クロレタリア列 クワイとイネ つるな列

水槽の中にメダカを放つ

菜園のビオトープ化

中央通路(作業路)の北側に大き目のコンテナを並べて置く。コンテナの中に小コンテナを埋める。小コンテナに荒木田土、赤土細粒を入れて、「イネ」を植える。「食用姫蓮根」を植える。「ジュンサイ」を、「姫ヒシ」を植える。…水棲植物を植えるのです。すると、アメンボウがやってくる。ヤゴもいる。見たことのない蜘蛛たちも、数を増す。「蚊」の発生対策に「メダカ」を入れる。色んな「蜂」「アブ」「蠅」「蝶」「蛾」…。水飲み場。実に騒がしい、賑やかである。鳥達も集まってきます。いよいよ「楽しい畑」になってくる。地球の大循環を垣間見るのであります。生きものたちは、「糞」を落としてまいります。それで…、「無肥料栽培」の実現を夢

見るのであります。 やがては、「無施肥栽培」も可能なのでありましょう。

畑の中に動物たちの「水飲み場」を作りましょう。 これぞ、「小さなビオトープ」である。 彼らの「糞」に…、期待して。

ハーブの活用

元気一杯、復活した里芋の畝に「蟻」が群がる。「蟻」はアブラムシ＝アリマキを運ぶ。「菌」をばら撒く。 おそらく吸引性の虫たちが増殖しているのでありましょう。 甘い汁に預かろうと寄ってくる。「タンジー・マジー」(キク科)だ。「ミント」(シソ科)、「アフリカンマリーゴールド」(キク科)の出番だ。 細かく刻んで撒く。 蟻が臭いを嫌って居なくなる。 見事。 蟻の活動が止まる。 草を刈る時に「科」を考えて集める。刈草マルチをする。シソ科、キク科、の刻み散布で、加害害虫が減ってくるのであります。 色々と考え事がある、面白い。 想像の翼を広げるのです。 ストチュウも有効。

「柿」が色づいてまいりました。

「東京百目柿」、切り払った「キイジョウ」の台木から出てきた木にも、品種不明の「柿」が成る。 橙色がついてくる。 かじると甘い。「渋」が無い。甘ガキだ！。

「東京百目柿」は熟しても柿の皮が薄緑、それで人気が無い。結構美味しいのですが店には並ばない。 その甘い柿が「霜」に当たると恐ろしいほどの「渋」。これも、人気の出ない理由であろう。 甘いと思って人様に差し上げたことがありましたが、余りの渋さにその方に嫌われてしまいました。 そんなことが、ありました。「不完全甘柿」と言われる品種です。 柿の蒂は乾かして「茶」にして飲む。 のど痛、咳込みに有効と聞く。 やってみると具合が良いようです。「渋」が出てしまったら、干し柿にしましょう。 楽しみが増える。柿の実の皮は、甘味料になります。漬物に使ったり、利用できます。

「柚子」の実も大きくなってきました。肉料理、魚料理に柚子酢をかける。香りを利かす。 種はどうしますか？。『捨ててしまいます』と。 もったいないもったいない。

柚子の「種子」は、口内炎の特効薬。 頬の内側を噛んでしまった。痛む。歯が痛い。歯茎が痛む。 そんな時には「柚子の種子」、口に含んでおきますと治ります。 患部に押し付けてそのままにしておくのと違って行くのであります。それでも痛む場合には、歯科医院に参りましょう。「夏蜜柑」の種でも同じ効果がある。柑橘類の種子は有効である。

「柚子の実」が収穫されずに落果。そのまま捨てられる。「もったいない、もったいない」。 ジュース絞り皿で「生シューズ」。果皮は「ユズの香り付け」。面倒ならば、実をそのまま 1/4 に切って砂糖を入れて、煮ます。 薄めれば「ジュース」、更に煮込めば、「ジャム」になるのであります。「種子の効能」も忘れてはなりません。捨てることはありません。 降霜のある時にはネットを掛けを掛けましょう。 樹皮を環状に剥ぐ方法もあるようだ。 **環状剥皮。**

剥皮すると、2年後には開花結実すると言う。 清瀬の松村氏に教えていただく。